

2019年6月30日（日）

主 題：「偉くなりたいですか」

—お分かりですか—

テキスト：マタイの福音書20章20～28節

はじめに

- ・私たちは日々の生活において、分かっているようで、分かっていることがありません。分かっている場合は、どれだけ話しても、話は噛み合いません。

（例 話）

- ・恥ずかしいことですが、私と妻との会話においても、噛み合わないことがあります。たとえば、妻は「あれ」（妻の頭の中にある）、とか「彼」（妻の頭の中にある）という表現をよく使います。しかし、私は妻の頭の中のワールドの中にはいないので、「あれ」が何を指しているか全く不明であります。同じように、「彼」と言われても、地球人口の約半数は男性で「彼」となりますから、私は悩みまったく分からないのです。
- ・皆さん！「分かる」とか、「噛み合う」とくことは、双方が同じ土俵上において実現するものです。私と妻とのことは小さなことですが、世間ではこの「噛み合わない現象」が起こります。そこに争いが始まり、問題が生じてきます。
- ・大きく考えれば、今ここ大阪で開催中の「G20国際会議」であります。世界の主要20ヵ国、それにゲスト招待された8ヵ国が参加していると聞いています。最大テーマは貿易問題で、「噛み合う」ことを願っています。
「噛み合う」ことは、とても大切なことです。
- ・ところで、今から約2000年前、イエスの弟子たちと主イエスとの間にも「噛み合わない現象」が生じました。それが今日の聖書テキストです。
この時、イエスは受難直前でした。イエスは3度目の受難予告をされました。
20:18 「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。
20:19 そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」
- ・しかしゼベダイの子（ヤコブ、ヨハネ）の母（サロメ）は、イエスに次のように言いました。
20:20 そのとき、ゼベダイの子たちの母が、子どもたちといっしょにイエスのもとに来て、ひれ伏して、お願いがありますと言った。
20:21 イエスが彼女に、「どんな願いですか。」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとりは左にすわるようにおことばを下さい。」
- ・これを聞いた他の10人の弟子たちは立腹しました。
20:24 このことを聞いたほかの十人は、このふたりの兄弟のことで腹を立てた。

イエスはこの時、次のように言われました。

20:22 けれども、イエスは答えて言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」
彼らは「できます。」と言った。

- ・ここに「噛み合わない現象」が起きました。私たちも今日、胸の内を考えてみましょう。

大切なポイント

1. 胸の内に見えるもの

1) 人の胸の内

- ・20:21 イエスが彼女に、「どんな願いですか。」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひところは左にすわるようにおことばを下さい。」

母サロメの悲願は、きっと息子（ヤコブとヨハネ）の一人を右大臣に、そして一人を左大臣にさせたいところであったでしょう。それが、母親の胸の内を支配していたに違いありません。

- ・しかし、イエスの愛弟子たちを見てみましょう。 マタイ 18 章

18:1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」

マタイ 16 : 22

16:22 するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」

- ・そして、ヤコブとヨハネの母サロメの発言に、弟子たちは腹を立てました。

20:24 このことを聞いたほかの十人は、このふたりの兄弟のことで腹を立てた。

- ・これらが、弟子たちの胸の内でした。彼らの内に一致、ハーモニーはありませんでした。なぜでしょうか・・・？ みんな自分（自分たち）のことを第一に考えたからです。そこに人間の胸の内にあるみにくい姿を見ます。しかし、それは私たちの姿ではないでしょうか。

- ・ですから、私たちの生きる社会には、今に至るまで問題が起こっているのです。

2) キリストの胸の内

- ・イエス・キリストは、彼らに次のように言われました。

20:22 けれども、イエスは答えて言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」
彼らは「できます。」と言った。

20:23 イエスは言われた。「あなたがたはわたしの杯を飲みはします。しかし、わたしの右と左にすわることは、このわたしの許すことではなく、わたしの父によってそれに備えられた人々があるのです。」

- ・イエスの側で約3年間も生活を共にした弟子たちは、イエスの胸の内を全く理解していませんでした。イエスは3回の受難予告にもかかわらず、弟子たちとの間にギャップが

ありました。

しかしイエスは怒らず、叱らず、じゅんじゅんと説かれたのでした。

- ・イエス・キリストの姿勢は、まったく従順でした。

ピリピ人への手紙

2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

2:6 キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、

2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。

- ・なぜ、こんな大きなギャップが生じたのでしょうか。

弟子たちは、人間そのもの（肉）でした。肉の塊のようなものでした。

その固い肉が砕かれる唯一の道があります。それは人力ではなく、神の力によるものです。

- ・しかし、神の御霊である聖霊が働いてくださる時、肉の塊のようなものが砕かれます。それには、先ず十字架が必要です。あがないのわざが完了する必要があります。「あがない」は、英語で“atonement” (at one moment)と言います。一瞬の内に実現するのが、神の「あがない」のわざです。

『例 話』

- ・しばらく前ですが、私はオーストラリア・シドニーに伝道旅行へ行きました。その時（私の帰国前日）、一人の日本人女性に出会いました。彼女はオーストラリアに憧れてやって来て、ある豪州人男性と出会い結婚することになりました。
- ・ところが、その結婚はうまくいかず、離婚しました。そしてしばらくして、彼女は別の豪州人男性と出会い、再婚することになりました。ところが残念ながら、この結婚もうまく進まず、離婚してしまいました。そこで彼女は深く傷つき、人間不信に陥ってしまいました。
- ・彼女は自分の人生を疑い、男性を信じられなくなりました。そして、カッターナイフを手に自分の体に傷をつけ始め、最後には命を絶とうと試みました。その時です。聖書の神に出会いました。聖書の救いのみことばが彼女の心に入りました。
- ・そしてイエス・キリストが、自分のまことの救い主であることが分かりました。彼女はイエス・キリストの前に罪を告白し、イエスを救い主と信じたのです。“at one moment”（贖い）が成就しました。彼女の人生は、それから大きく変えられたのでした。それは、神が成されたすばらしいわざでした。
- ・人の胸の内には、さまざまな思いがあります。私たちがまことに砕かれるのは、イエス・キリストに出会い、「あがない」を経験してからです。そこで私たちは、祝福を得る道について考えてみましょう。

2. 神の祝福を得る道

1) 偉くなりたいと思う心

20:26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

- ・「偉くなりたい」、と思うことは悪ではありません、どうぞ、誤解しないでください。ここでいう「偉くなりた」という思いは、他人をさておいてという意味です。それは心の高慢のことです。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとお
り、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるい
ます。

これは選民（イスラエル）が、異邦人に支配されることです。それはクリスチャンが。世の人々に支配されることです。

- ・高慢は未来を暗くしますが、謙遜は未来を開きます。高ぶりには、必ず恥と滅亡が伴います。信仰書を多く読み、説教をたくさん聞き、自分に信仰があると過信してしまうことがあります。
- ・あるいは、それ以上に教えを受けようとしないう高慢な心もあります。恥をかいてから後悔する者になるのではなく、耳を開いて警告のことばを聞かなければなりません。それでは、祝福を得る道はどこにあるのでしょうか。

2) 仕える者になりなさい

- ・ 20:26 あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。
- ・ 私たち人間の姿を知るならば、自我（エゴ）の塊のような存在であることが分かります。ですから、砕かれる必要があります。イエスは弟子たちの胸の悲願「偉くなりたい」という思いを見通されました。そして神の祝福を得る原則を教えられました。→「仕える者となる」
- ・ サロメ、ヤコブ、ヨハネのように先に立ちたいという思いを持つならば、「しもべ」（仕える者）になりなさい、と教えられました。これは逆説的真理です。ここに、この世の基準と、神の国の基準の違いがあります。
- ・ 仕えるとは、どういうことでしょうか。それは高慢、プライド、傲慢などが砕かれることです。では、どうすれば砕かれるのでしょうか。弟子たちもあのペンコステの日までは、この奥義を理解するとはありませんでした。
- ・ 祝福の原則を得る道は、イエス・キリストに目を留めることです。

ヘブル人への手紙 12 章

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

- ・ イエスは非難、中傷、苦しみ、迫害を甘んじて受けられました。そこには高慢、プライド、傲慢はありませんでした。主に仕えるしもべとなられたのでした。それは、私たちへの「贖い」（atonement）が実現するためでした。私たちが、人生でまことの祝福を得る道はここにあります。

ま と め

主 題：「偉くなりたいでしょうか」

—お分かりですか—

- 今日、私たちは大切なことを学びました。それは神の祝福を得る原則です。
ヤコブ、ヨハネ、サロメ、そして10人の弟子たちの心中にあった高慢な思い（偉くなりたい）、それは私の姿ではないでしょうか。
- 聖書は世の教えとは異なる逆説的真理を教えています。それが次のみことばです。
20:26 あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

* God bless you !